

# 生物多様性に配慮したアマモ場造成技術開発調査事業 アマモ類の遺伝的多様性解析調査

奥村 宏 征・辻 将 治・広 瀬 和 久

## 目 的

消失したアマモ場を再生する動きが各地で盛んになりつつあるが、アマモ類の遺伝的多様性と地域固有性を把握し、確保したうえで再生に取り組む必要がある。そこで、水産庁と（独）水産総合研究センターが中心となり、H16年度から3ヶ年全国の水産試験場などと協力しながらアマモ類の分布状況の把握と遺伝的な解析を行うこととなった。三重県においても藻場造成事業でアマモが対象種となる事例があることから、本調査事業に参加することとなった。本年度三重県では県内のアマモ場の調査およびサンプルの採取を行った。

## 方 法

三重県沿岸域で潜水によりアマモなど海草類分布の調査を行った。アマモ類分布域において5mごとに引いたライン上を3m間隔でサンプリング。半径50m程度のアマモ場で30個体の採取を行う。採取アマモは地下茎でつながった数本のうち1本を分析用サンプルとして凍結保存し残りは押し葉標本として保管。なお遺伝子解析は東北区水産研究所、国立科学博物館筑波実験植物園が実施する。サンプリング時に環境データとして水深、底質、水温を測定、記録する。

## 結果および考察

本年度は志摩市の英虞湾海域と二見町池の浦海岸において海草類分布についての現況調査を5 - 7月に潜水にて実施。英虞湾では湾奥部の立神ではアマモ、コアマモ、ウミヒルモの分布が確認された。船越の深谷水道では砂質の海底にアマモの分布が確認された。一方二見町池の浦海岸では砂質の海底にアマモとコアマモの分布が確認された。それぞれにおいて海草類のサンプリングを行い、遺伝子解析用サンプルを採取し押し葉標本作製した。英虞湾と池の浦ではアマモは水深2 ~ 8m程度の海底で一般的に見られ、砂質と泥質のどちらの底質においても生育している。英虞湾内でアマモは水生植物の優先種と思われる。また、英虞湾奥部の0.5 - 3m程度の浅い海底ではコアマモが生育しており、干潟からコアマモ、アマモと連続した生態系が存在する。ウミヒルモはコアマモとほぼ同じ水深に生育しているが、その現存量は少なく分布範囲は狭い。

アマモ場は沿岸域の一次生産者であり魚類や甲殻類、貝類などの餌場や産卵場、幼稚子の生育場として機能している。これらの生育状況や現存量変化は沿岸環境と密接な関係があることから、これらの海域において今後も継続的に調査を行う必要がある。

なお、伊勢湾では松阪市松名瀬海岸を中心に数ヶ所アマモの分布が確認されており、来年度調査のうえサンプル採取する予定である。

表1 調 査 結 果

場 所	調査月日	海草類種類	サンプル数	生育水深	底質
英虞湾・立神	2,004.12.9	コアマモ	22	0.5-3m	泥質
		(アマモ)		2-8m	泥質
		(ウミヒルモ)		0.5-3m	泥質
英虞湾・船越 (深谷水道)	2,004.11.2	アマモ	24	1-1.8m	砂質
二見町・池の浦	2,005.1.18	アマモ	10	1-2m	砂質
		(コアマモ)		0-1m	砂質

括弧内はサンプル採取せず種分布確認のみ